



謹賀新年

昨年は高津新田総合研究のまとめで大きな成果を上げることができました。

皆様のご努力に感謝申し上げます。

今年は高津村の総合研究に取り組みます。今までの教訓からまずは2月例会で高津村について基本的な情報(文献、地理的景観など)を共通に把握してから進みたいと思います。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

平成16年甲申 元旦

八千代市郷土歴史研究会長 村田一男



写真は郷土博物館屋外展示の庚申塔(享保15年)の三猿です。庚申さまのお使いの猿はどうしてみざる・いわざる・きかざるなのでしょう。

「お上に対する庶民の処世術」といかに封建社会の構造説明がなされていることがあるけれど、どうも違う見方もありますね。

つまり強制ではなく矛盾から目をそらすために積極的には見ない・言わない・聞かないというもの、めんどうだからそうするというもの、能がないからそうするというもの、などの態様が考えられます。

そこで我会では見るべきことを見、聞くべきことを聞き、言うべきことを言うという新発想でほどほどに進みましょう。

なぜなら今年の干支は甲申、ということは甲=きのえは暦、ものごとのはじめにあたり、ことはじめの申年だからです。以上、初夢想でした。

お知らせ

2月15日(日)例会「旧高津村の基本学習」
午後1時より 八千代市立郷土博物館にて

3月7日(日) 拡大役員会
午後1時より 八千代市立郷土博物館にて
役員のほかどなたでもご参加ください

3月14日(日)高津地区フィールドワーク
12時半 八千代台改札口集合

直接現地が便利な方は、午後1時に高津山観音寺本堂前までお出てください。

16年度の調査課題の「高津」を歩きます。
新入会員の方、久しぶりの方のためにも「高津」を知るには最適なレクチャー-ですので、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

高津山観音寺～高津比咩神社～高津館跡～
観音堂～その他、道標・高津川・妙見社など

平成16年度定期総会のお知らせ

4月11日(日) 午前10時～12時
八千代市立郷土博物館にて

会員の皆様には、この通信記事をもって総会のお知らせといたしますので、ご了承の上、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

なお、当日午後には、次のような講演会が「むつみ街づくり研究会」主催で行われますので、ご自由にご参加ください。

講演会「市内中世城郭をとりまく情勢」
午後1時半 同所にて 講師・村田会長

八千代市民文化祭参加
「郷土史展」
盛況に終了しました！

11月22日(土)午後1時~5時
23日(日)午前9時~午後4時

勝田台文化プラザ2階 展示室

テーマ「高津新田研究 イエとムラとくらし」

15年度は、昨年度に引き続いて調査した旧村「高津新田」総合研究の成果を発表しました

また本会30周年記念行事として訪ねた「東・西金砂神社大祭礼」、本年その準備過程から取材した「三山七年祭」の写真も展示しました。

- ・参加者数：延べ255名
22日：会員24名・お客様106名
23日：会員22名・お客様103名
- ・「史談八千代」売り上げ冊数：
延べ153冊(22号・27号・28号)
- ・新入会員3名



入場最後の方々には、配るべき「郷土史研通信44号」も底をつき、用意した「史談八千代」も売り切れとなるほどの盛況振りでした。

ご来場のお客様には、いつも熱心に見ていただいておりますが、今年は高津新田地元の方や、市内外で祭りに参加された方々に、展示に関連してご助言や新しい知見をたくさん教えていただきました。

地元の皆様に教えていただいたことを展示でご披露し、見ていただいてさらに対話の中で内容を深めていくという双方向型の郷土史展でありたいと思います。

また、東京成徳大学の学生さ

んもよく勉強していかれました。

次の世代に郷土の歴史を伝えていく責任も、私たちに期待されていることを感じた15年度の「郷土史展」でした。

会員の皆様、本当にお疲れ様でした。(蕨・記)

15年度郷土史展展示内容

1. プロローグ(村田会長挨拶)
2. 古地図 安房・上総・下総・三國圖(繪圖)
3. 八千代市全体図 1:10,000
4. 八千代市都市計画基本図 1:2,500 八千代市作成
5. 高津新田ムラの構成
6. 軍用地から街づくりへ
7. 平左衛門家の旧宅(昭和30年代のくらし)
8. 墓碑銘にみる旧家の変遷
9. 「八千代市の歴史」資料編に見る屋号
10. 高津新田の民俗「かつての暮らしと習わしの記憶から」
11. 聞き書きから「お参りに行ったお寺や神社」
12. 高津新田諏訪神社の和歌額について
13. 稲垣家の家相図:旧家・稲垣家の家相図からみる間取りとその復元
14. 諏訪神社礎石銘文 周旋原由 修繕事由
15. 市内最古か馬頭観音塔
16. 高津新田と長作との深いつながりを示す「石坂寄進連名」の碑
17. 高津新田の子供たちはどこで学んだの?(八千代市の筆子塚)
18. 東・西金砂神社 大祭礼の光景
19. 三山七年祭の風景 高津比咩神社祭礼
20. 三山七年祭の風景 時平神社祭礼
21. 三山七年祭関連地図
22. 手拭 磯出大祭礼・三山七年祭
23. 郷土史研フォトアルバム「2002~03年の活動から」



12月23日(火)例会報告
長作の歴史散歩

畠山 隆

今回の歴史散歩は、千葉市花見川区長作町である。2年間にわたる「高津新田総合調査」は11月の『史談八千代』28号の発行と、文化祭での発表をもって終了したが、ここ長作町は高津新田のルーツともいえる旧村であることから、その後追い検証する意味で村落の史跡をたどってみることにした。

無風快晴、抜けるような青空のもと、集合場所の京成幕張駅に集まったのは、新会員の平塚、角野両氏と、特別参加の房総石造文化財研究会会長沖本先生らゲスト4人を含む29人である。

今日の案内役は佐久間、真砂のご両人。新会員とゲストを紹介し、村田会長挨拶のあと、「JR幕張駅前13:12発の長作行きバスに乗りこむ。

旧公民館前で下車、このバス路線は通称「救済道路」と呼ばれているところ。バス停「長作入り口」から「長作小学校」までの区間は、昭和初めの金融恐慌時、困窮した長作農民の生活を救済する目的で国の補助事業として道路改修工事が行なわれたという。



そこから数分歩いて階段を上がると天津神社(妙見さま)である。神社の鍵守りである高橋進様が出迎えてくださった。鳥居には天津神社とあるが、村の人たちは妙見さまと呼んでいる。御神体は千葉氏が尊崇した妙見菩薩であるが、明治維新の神仏分離令により、天津神社になっ

たという。御神体は拝観できなかったが、堂内に妙見菩薩像の絵が掲額されてあったので、さっそく沖本先生に解説をお願いした。また 2 枚の句額もあり、関和会員の説明によれば撰は弧山堂卓郎によるもので、嘉永元年に奉納されたという。中に八千代市内の地名も散見されたが、黒く変色して多くは判読できない状態であった。



神社からは今来た道に戻って日蓮宗本勝院長胤寺へ。武石家の祖である武石三郎胤盛の曾孫長胤が弘長 2 年（1262）に創建したといわれる古寺である。

藤会員の解説によると、現在は日蓮宗寺院であるが、天文 14 年（1545）までは真言宗の寺で、いわゆる上総七里法華により改宗されたのだという。

佐久間会員の案内で寺内にあるこの地方の開拓者中台武左衛門や地頭服部家の墓、筆子塚群などを見て回った。高津新田旧家のうち大半の 12 戸が、ここ長胤寺を菩提寺としていることでも高津新田とのつながりの深さがわかる。

次に向かったのは、今年 6 月真砂会員が見つけた薬師寺石坂寄進碑である。既に『史談八千代』28 号に詳しく報告されているが、初めて現物を目の当たりにすると、また新鮮な感覚が湧いてくる。傍のお宅・中台家の奥様からご説明いただいた。碑の前につづく坂道を上ると、山の上には薬師堂（最初の薬師山学校）があったと伝えられているが、今では山の大半が削り取られて住宅地となりその痕跡もとどめていない。碑文にある寄

進した敷き石と思われる数百枚の石も付近には見当たらず今後の研究課題として残った。だが高津新田の寄進者 8 人の名が刻まれた碑は八千代市にとっても貴重な文化財であろう。

このあと長作小学校百周年記念に建てられた**長作小学校発祥の碑**を見学し、諏訪神社に向かう。

諏訪神社は南斜面に突き出た小高い台地上にあり、長い階段を上って後ろを振り返ると、眼下に花見川、遠く幕張都心のビル群を望む眺望絶佳の地である。高津新田の諏訪社は、ここの分社とされていてオビシヤなど共通する行事がある。

ここで注目したのは神社の見事な彫刻であった。解説によると拝殿は嶋村本流江戸彫刻を継ぐ 8 代彫刻師嶋村俊表、本殿は嶋村多宮定直の手によるもので、本殿胴羽目と脇障子に彫り込まれた一つ一つの彫像は実に精緻ですばらしい。その中に唐夫人・大舜の二十四考の彫像があり、本日都合で参加できなかった藤本諒輔会員に代わって関和会員が解説するのを一同うなずきながら真剣に聞き入った。

これで本日の予定はすべて終わったが、帰る途中で**水神社**に立ち寄る。大分歩いた後なので長い階段を登る足取りが重い。冬至過ぎの太陽は早くも西の空に傾いていた。

16:09 坊辺田発八千代台行きバスで一同帰路についた。その夜は八千代台ユアエルム内の寿司岩で恒例の忘年会を開催。今日一日の出来事、一年の回顧談で会が盛りあがったのはいうまでもない。

終わりにわざわざご案内とお話をいただいた長作の高橋様、中台様、それと解説してくださった沖本先生、その他案内役の会員諸兄弟姉に対し感謝をささげたい。

1 月 4 日（日）
佐倉七福神巡りレポート
成瀬摩希子

1 月 4 日（日）今年も年始恒例の七福神巡り例会が行われた。七つの災難を取り除き、七つの幸福を授かることができるという。

今年は、佐倉の七福神を牧野事務局長の案内で回った。佐倉の七福神は、佐倉七福神会（商工会議所）が去年からスタートさせた、まだ新しい七福神巡りコース。

八千代郷土史研では、1 時間目安の所を、周りの史跡も眺めつつゆっくりと 3 時間かけて回った。

午後 1 時半からのスタートだったこともあり、暖かで最高の散策日和だった。

参加者は会員 17 名、一般参加者 7 名の総勢 24 名で、当日駅での飛び入り参加もあった程の大盛況だった。

佐倉駅で点呼を取り、牧野事務局長を先頭に、駅の東側から見学を開始。

佐倉の町は城下町だったこともあり、かくかくと曲がり、細い道が多い。車の通りも多い為、注意が必要。これまた城下町では当たり前かも知れないが坂道が多い。かなり至近な位置に全ての寺社が固まっているが、それでも上がったたり下がったり結構大変だった。



まずは、甚大寺（毘沙門天）・堀田家累代墓所（堀田正俊、正睦・正倫のお墓が、県指定文化財となっている。）→ 宗円寺（寿老人）→ 嶺南寺（弁財天）延覚寺（鈴木清助氏の顕彰碑）

→松林寺(毘沙門天)・土井利勝
建立の宝篋印塔(父母夫人の為
の供養塔)→妙隆寺(大黒天)
と一気に回った後に、休憩を兼
ねて歴史生活資料館を見学した。

宗円寺で「いいとこめぐりス
タンプラリー」なるもののスタ
ンプを発見。当初、御朱印の簡
易版と思い、全て押して回ろう
と甚大寺まで押しに戻ったりし
たが、これはまた違うイベント
用だそうで七福神全てにスタ
ンプがある訳ではなかった。

休憩後は、西方面の散策にな
る。資料館前の旧成田街道を西
へ向かうとT字路の突き当たり
に佐倉町道路元標が建っている。
この辺が佐倉の札の辻でかつて
は一番の繁華街であったそうだ。

麻賀多神社(福祿寿・恵比寿)
をお参り後、市民体育館敷地内
にある西村勝三の像と佐倉高校
の前身、「集成学校」の記念碑を
見学してから、最後の大聖院
(大黒天・布袋尊)へと向かっ
た。大聖院への通りには武家屋
敷が並んでいて普段は見学がで
きるが、残念ながらお正月休み
で休館中。

大聖院を出る頃には、さすが
に日が傾いて寒くなってきた。
駅までの帰り道がかなり遠く感
じる。重たい足を引きずりつつ
も、全員怪我もなく無事に駅に
戻り、4時半に解散。

牧野さん、皆様お疲れ様でし
た。今年もよい年でありますよ
うに!

会員消息

= 新入会員 =

角野西造 (東習志野2丁目)
斉藤君代 (ゆりのき台5丁目)
桜井省三 (萱田)
佐藤二郎 (村上)
平塚 胖 (八千代台南1丁目)

= 住所変更 =

増田俊幸
(福岡から松戸市南花島へ)

夭折した島田の

「山口じょう子氏」に思う
佐久間弘文

国道16号島田台の信号から
県道の船橋方向へわずかに行っ
て南に下がれば島田地区となる。
ここに設置された墓地のなかに
碑文と和歌が彫られた山口家の
墓群があり、同家の許可のもと
にその中の一つの墓に刻された
碑文と和歌にルビを付して紹介
する。

この墓石右面の碑文は次の通
りである。

山口じやう子八明治十八年五
月四日睦村に生る幼少より聰敏
にして學徳夙に衆に超えたり千
葉縣高等女學校の創立に際し進
みて之入學し上級に在りて
常に同輩に推さる會々病に罹り
去年八月廿日溘焉(にわか)に
として逝く師友之越哀まざる
ものなし余子を知流こと乃深き
越以て痛惜乃情特に切奈り依
りて其乃一端を記す

明治三十四年八月 千葉縣
高等女學校教諭 小池民次

また左面には三首の和歌が刻
されており、関和会員の協力で
次のように読んだが一部は残念
ながら剥落して読み取れない。

高等女學校に在學の時家にお
くる故 じやう子
奥ふかき 学びの道に すゝめ
よと 教ふる親の なさけを楚知
る

じやう子能みまかりぬる越悲
みて 三山春次

露の 消えぬるを越しみ
なく虫を あはれと思へ 野邊能
秋はぎ

じやう子を弔う 小池民次
今よ季は 心志つ可に たどれ
かし 佛のみちを たがへて

碑文で分かるように千葉県高
等女學校(現在の千葉女子高)
の創立の年に入学した山口じ
ょう子はその年の夏に15歳の若さ
で世を去った。

和歌を詠んだ三山春次は当時
25歳、代々三山の二宮神社神官
の家系の出で、大正12年千葉市
が市制施行時のとき一市一校制
として統合した千葉尋常高等小
學校の校長を務めた。

また小池民次は当時の千葉県
高等女學校の主席教諭であった。
三山氏と山口家・小池氏との関
係は不明だが入学後4ヶ月で死
去した俊才を惜しんだのであろ
うか。

島田山口家が夭折したじ
ょう子にどれほどの思いを込めてこ
の墓を建て和歌を刻み込んだか
察するに余りある。戒名の「法
壽院妙誠日學大姉」からもその
思いを感じることができる。

ところで「じょう子」を叔母
とする山口家の山口万壽さんは
同じく千葉高女を卒業し薬円台
の三山家に嫁いたが、ここは騎
兵學校に近く、軍の將校の下宿
先でもあった。昭和7年8月1
4日、ロサンゼルスオリンピック
最終日の馬術大障害競技の優
勝者は騎兵學校に所属していた
西竹一少尉であったが、西中尉
の下宿先がこの三山家だったと
いう。

なおこの墓石は村上会員の紹
介で共同調査したものであり、
彼は同墓群にある別の墓石など
から俳句文化の観点で更に研究
中である。

編集後記

郷土史展が2002年より11月下旬
になったため、今号より1ヶ月遅ら
せ、2月・5月・8月・11月に発行。
次号は総会後となり、その報告をす
ぐにお届けできそうです。

インターネットではWeb速報版
で一足早い情報をごらんになれま
す。「[八千代市郷土歴史研究会](http://www.hqwr.jp)」
で検索してご利用ください。

by.ゆみ

QWR07752@nifty.ne.jp